

明道クラブだより

第2号

令和元年

7月19日発行

小学校と家庭と地域を結ぶ



7月になり、いよいよ夏の訪れかと思われましたが、梅雨のせいかすっきりしない日が続いています。それでも子どもたちは時折見せる太陽の下で、元気に遊んでいます。梅雨明けが待ち遠しい今日この頃です。栗野地区の皆様におかれましてはご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて栗野小ではプールでの授業も終わり、夏休みを迎えるだけとなりました。夏休みになると子どもたちは家庭に帰り、そして地域に戻ります。地域の行事や遊び等で子どもたちを見かけると思います。子どもたちの安全な生活は学校だけでは守れません。皆様地域の方々の協力が必要です。いろいろな所で見守っていただけるとありがたく思います。

地域の皆様、学習ボランティアの皆様ありがとうございました

「岡久保田堀」ってご存知ですか？

4年生の社会科「栗野地区の久保田堀」の授業（5/21・24）

4年生の子どもたちは5月の宿泊学習で鹿沼市板荷にある久保田堀の見学をしました。事前に学習して行ったので、久保田譲之助が中心となって作った用水路であることは知っていました。初めて見る久保田堀に「ああ、これかあ」ぐらいの感じだったのですが、学校に帰って来て、社会科の副読本を見ると、何と同じ久保田堀が栗野地区にもあるのです。これは「何？」「どういうこと？」「どこにあるの？」と疑問の声。

そこで栗野地区の歴史研究家の粕尾の「駒場一男様」にお願いして、詳しく話を聞かせていただくことになりました。皆さんはご存知でしたか？久保田堀が栗野地区にもあり、どうしてできたのか。どこにあるのか。

早速、学校にお招きして久保田堀の授業をしていただきました。最初は教室で久保田堀がどのへんにあり、どうしてできたかなどを聞き、次の時間には実際に現地に行って説明を聞きながら場所を確認しました。



手作りの地図を前に場所を説明する駒場様。



熱心にメモをするこどもたち。



当時使われていた道具を使ってみる子どもたち。「おもしろい」

栗野地区は今でこそ水田がたくさんありますが、明治の初期は畑が多かったということです。当時は食料の増産を図ることが緊急の課題だったのです。そこで畑を水田に替えて、米を生産することにしたそうです。久保田譲之助と同僚であり同級生だった清洲の安生順四郎が譲之助を栗野に呼んで作ったのが「岡久保田堀」だったのです。「岡」とは当時「三坪」地区が「岡」と呼ばれていたことによります。今でも久保田堀は残っています。



栗野地区コミセンの近くを流れる久保田堀



栗野小近くにある久保田堀。



「これもそうだったのか」と子どもたちのつぶやきが聞こえてきました。

2年生の生活科「まちたんけん」（6/25）

2年生の生活科で、自分たちの地域をよく知るために、どんな公共施設やお店があるのかを調べる「まちたんけん」がありました。2年生が2班に分かれてコースを決め、そこにあるお店や施設等の見学に行きました。お店の方々にインタビューをしてどんなお仕事なのかを勉強させていただきました。



「小磯菓子店様」名菓「茶ぶくさ」を作る様子を見学させていただきました。



「足利銀行様」では日頃どんな仕事をしているのか見学させていただきました。



「大森機械店」では大きな農機具にびっくりしました。



「消防署」では現場で使う服を着せて頂きました。



警察官の実際の捜査（指紋の採取）を体験させていただきました。



「サンハウス」ではどれくらいの種類の商品があるんですかと質問しました。

地域の皆様ありがとうございました。子どもたちはとても貴重な体験をさせていただきました。この体験はきっと今後の学習に生かされることでしょう。お世話になりました。

2学期もよろしくお願ひします